

輸出事業計画

株式会社愛てん、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

○現状

- ① 愛てんは、抹茶の原料となるてん茶荒茶の仕入れと仕上げを行い、地元の茶商（てん茶を抹茶に加工して国内外へ販売）に販売している。
- ② 令和2年度の輸出向け出荷量（茶商への出荷量のうち輸出に向けられた量）は、120t（うち、米国55t、ドイツ29t、インドネシア14t、他）、輸出向け出荷額は5.4億円
- ③ 茶商はてん茶を抹茶に加工し、国内外に販売。海外向けには飲用のほか食品加工用として販売。

○課題

- ① 輸出相手国ごとに異なる残留農薬基準のクリアや、広い産地間において一定の水準・品質の確保。
- ② 輸出相手国の嗜好に合わせた抹茶を生産するための抹茶向け品種への転換をはじめとする産地ブランドの確立。
- ③ 茶商からは様々なスペック(有機栽培、輸出相手国ごとに異なる残留農薬基準への対応、海外消費者の好みに合わせた色、風味)のてん茶が求められており、他県の産地を含めた広い地域から多様なてん茶の集荷、区分管理が必要であり、保管場所が不足している。

2. 輸出事業計画の取組内容

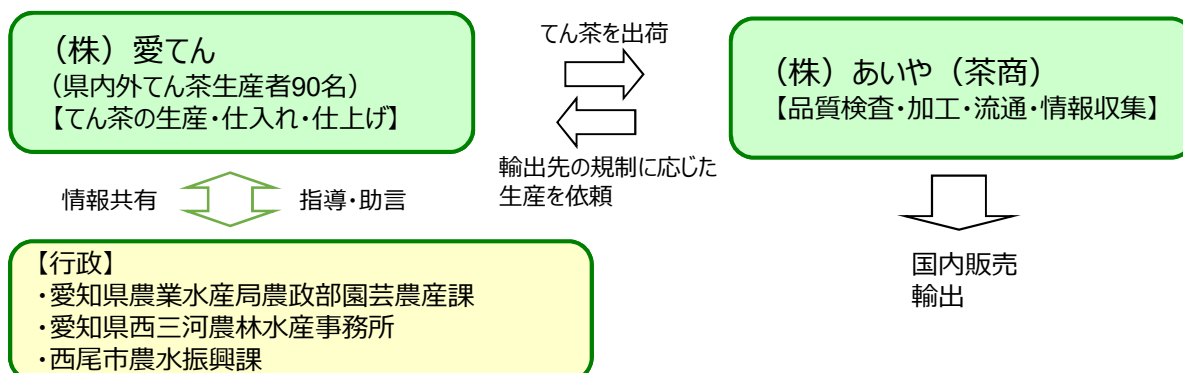
○生産

- ① 各国ごとのポジティブリスト制度に対応したてん茶生産を生産者（茶園）毎にGAPの普及等を通じた栽培管理の徹底を依頼・指導することにより、各国への輸出を可能とする。また、九州等他産地からも集荷し、多様なてん茶（特に有機茶）の量を確保する。
- ② やぶきたよりてん茶品質の高い品種（優良品種）の割合を増やし、産地の優位性を確保する。生産者に対して改植事業の積極的な活用を促し、てん茶品質が高く作期分散を図ることができる、さえみどり（早生）・せいめい（早生）・おくみどり（晩生）への改植を推進していく。

○加工・流通

- ① 保冷庫を新設（R8年度を予定）し、有機栽培茶専用の保冷庫としてより厳密に区分管理を行う。
- ② 新規に加工ライン用の建屋を建て、現在間借り状態のてん茶の加工ラインを自前の建物に移設する。ライン移設とともに機械（タンク、X線機、風選機、異物除去機など）を追加整備する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

○現状（令和2年度）

輸出向けてん茶出荷量 120t（うち米国55t、ドイツ29t、インドネシア14t、他 計12か国）
 輸出向けてん茶出荷額 5.4億円（うち米国2.4億円、ドイツ1.6億円、インドネシア0.4億円）

○目標（令和9年度）

輸出向けてん茶出荷量 285t（米国、ドイツ、インドネシア、他 計16か国）
 輸出向けてん茶出荷額 12.8億円